



第13期  
「京都教師塾」

平成31年1月26日

# 学びの広場

京都市教育委員会 教員養成支援室

## 中学校における学級経営～協働活動の視点から～ 講師 鳥 さやか 指導主事



### 1 全体会

学級経営については、ついこの前、学校の集団討論のテーマになったので、その時を思い出しながら聞いた。グループワークでは、仕掛けとして席替えの回数を増やし、交流を図ると言っていたメンバーがいて、なるほどと思った。他にはアイスブレイキングの意見も出ており参考にしようと思った。講義内容としては、教師が生徒の安全基地になると、生徒の世界が広がるといった点が印象に残った。また、3ルールやリレーションといった学級経営の基盤も勉強になった。今思い返すと、担任をもってくださった先生方の日々の行動も理由があったのだとわかり、改めて尊敬の念を抱いた。

### 2 分散会

分散会では、4人中2人が現役の講師をされている方とグループになり、現場での経験を踏まえた意見を聞くことができた。教師は、生徒の模範となるべき存在であるため、教室内のごみを拾うこと等の行動も大切だとわかった。また、この行動がルールにもつながり、規範性のあるクラスになると感じた。さらに、最初に決めた目標やルールに後付けするようなことは、生徒から不満が出る可能性もあるため、見通しをしっかりと持ち、目標を設定することが必要であると学んだ。

### 3 まとめ

分散会の話し合いから、常日頃から規範意識をもって行動していくことが課題だと考えた。「よし、やろう！」と思ってすぐに身に付くものではないと思うため、今のうちから当たり前のことだがルールを守って行動したい。私は高校2年生のクラスが一番楽しく印象に残っている。とある活動の際、計画的に考え実行に移せたのだが、それは普段から一人一人に役割を与え、グループワーク等も積極的に取り入れてくださった担任のおかげだと、今日の講義を聞いて実感した。私もクラスをもつ時にそのような学級経営を行うことで、生徒が学校に来たい、学校が楽しみといった気持ちになるような、笑顔に満ち溢れるクラスにできるよう取り組んでいきたいと思う。

授業では、ある意味「教えるー学ぶ」という関係の成立が明確であるため、新採教員でも自然と言葉遣いや態度を意識すると思います。けれども、学級経営には様々な場面があり、そこでの指導は「正答」がないだけに、どのように対応すればよいか悩むと思います。まず学級経営上の取組の意義を伝えることが大切になります。例えば席決めですが、イベントとしての席決めではなく、教師の意図（人間関係の構造や広がり、視力が弱い子どもへの配慮、教室内の役割や当番の変更などへの対応など）としての席決めや席替えが大切になってきます。座席は全員出席の日に（平等）、いろいろな友だちと（関係性）、視力への配慮（思いやり）、一定の期間を経る（柔軟性）ということがポイントになると思います。なんとなく席を変えるのではなく、その際、条件などについて子どもたちに分かりやすく説明することも大切です。



## 小学校における学級経営～協働活動の視点から～ 講師 鍵村 佳江 指導主事

### 1 全体会

学級経営は私自身がずっと学びたかったことであり、どうしたらより上手な学級経営ができるのか考えていたこともあって、とても学びになった時間でした。子ども一人ひとりの個性を尊重するためにも、教師は児童の様子を見て、クラスの様子を見て、学校の様子を見るのが大切だということが改めて分かりました。講義を通して、私が一番印象に残った言葉は、「学級の問題はクラスの成長の糧」という言葉です。「学級の問題」と聞くと、やはりイメージするのはマイナスのことばかりで、どうしようか悩んでしまうだろうなと思いました。しかし、その問題は、これからのクラスをどうしていきたいのか考えるきっかけにもなるし、新たなクラスの形を作ることができるきっかけにもなるということを知れました。何事にもマイナスのイメージから入るのではなく、「これは試練！成長できるチャンス！」とプラスに考えて取り組んでいこうと思いました。

### 2 分散会

分散会では、それぞれが思ったこと・感じたこと・考えたことをふせんに書き、貼り出してみると、意見がほとんど被ることなくばらばらだったので、多面的・多角的に様々な話題について考えることができました。その中でも深く考えたのは、「困りを抱える子を核とする」「友達同士の良い所・すごい所探し」「ルール作り」の3つです。学級経営は大切なものだという事は頭で分かっているけど、どのように取り組んだらよいのか、どこに焦点を当てればよいのかが分かりませんでした。しかし、困りを抱えている子を核にすることで、その子が悩んでいることはきっと他の子も悩んでいるということが分かりました。他にも、友達同士で褒め合えたり、感謝を述べたりできるようになると、児童自身の自己肯定感も高まるし、新たに個性を知れたり、尊重できたりするなと思いました。

### 3 まとめ

学級経営は本当に奥が深く、一生涯の学びだなと感じました。ルール作りなどもまだはつきりどんなことを取り上げたらよいのか考えられていないので、実地研修先の先生方に聞いて、知識を増やしていきたいと思います。

学級教育の目標である「子どもの生きる力の育成」を進めるには、まず「学級経営が基盤」となります。しっかりした学級経営を土台としてこそ、日々の充実した授業展開が可能となります。各学校では、個々の児童・生徒にとって「安心して安全にらせる学級」であること、「互いに認め合い、支え合える学級」であることをめざし学級づくりをします。指導者としては、そのために具体的に何をしなければならないかを考え、実践していかなければなりません。新学習指導要領に示されている様に、主に集団の場面で必要な指導や援助を行う「ガイダンス」と、個々の児童・生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行う「カウンセリング」の両方の具体的実践について、今後も学んでいければ良いですね。



中学校

分散会・補講の様子

小学校



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で  
子どもと共に育む京都市民運動を実践しよう！



京都市はくくみ憲章